

立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）
 大学院生研究
 2006年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院	文学研究科	地理学専攻
指導教員	所属・職名	氏名	
	文学研究科・教授	豊田 由貴夫 印	
自然・人文の別	自然 ・ 人文	個人・共同の別	個人 ・ 共同 名
研究課題名	流通過程における商品化と工芸化と特産化ーオリッサ州の「サンバルプリ」を事例として		
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
	文学研究科・地理学専攻・後期課程4年	佐藤 誠 印	
研究組織	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
研究期間	2006 年度		
研究経費	200 千円		

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究の目的は、インド・オリッサ州の「サンバルプリ」と呼ばれる布を事例として、その生産者の「現状」を具体的に記述することである。ここでは、生産者によってつくられるモノが、どのような場所で、どのような人々によって、どのような評価を受けているかという点を「現状」とする。そのために、三つの場（生産、流通、表象）を分析的に仮設し、生産の場から流通の場、また表象の場へと移行する過程において、モノが商品、工芸品、特産品としてどのように価値づけられ、それに対して生産者がどのように関わっているかについて明らかにする。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[物質文化研究] [工芸] [オリッサ]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

2006年7月から9月の約2ヵ月間において、主として①～⑤の現地調査を行った。

①オリッサ州西部地域において、サンバルプリがどのような商品として売られているかについて、スバルナプル県の中心地ソノプルの週定期市と商店街および州都ブバネシュワルの複合商業地域を対象として調査を行った。ソノプルの週定期市は火曜日に行われ、毎週約300もの店舗が軒を連ね、スバルナプル県において最も規模が大きい。スバルナプル県の全域において大小さまざまな週定期市が異なる曜日に朝から夕方にかけて開催され、それぞれ近隣の週定期市を利用している。日用品から食料まで、日常的に必要なものはほぼ週定期市で揃えることができる。専従的に週定期市で商業を営む者も多く、場所を変えて毎日出店している者もある。ソノプルの商店街はやはりスバルナプル県で最も規模が大きく、取り扱っている商品も多い。最新の家電製品など、県内ではここでしか手に入らないものもある。複合商業地域はオリッサ州の州都中心部に位置し、高級品を取り扱う店舗も多い。週定期市と商店街の商品群を比較すると、前者の方が生鮮食料品を取り扱う店舗が圧倒的に多く、羊肉などはおおむね前者で購入される。週定期市では、生産者が直接に販売し、中間マージンがないと一般的に考えられているため、後者よりも前者の方が安いとされている。しかし実際には生産者だけでなく商人も多く、生鮮食料品などは週定期市で購入されるため、毎週多くの人々が集まることから、ときには週定期市の方が価格が高くなることもある。ブバネシュワルのそれは、これらに比較すると店舗の規模も大きく、商品の種類・量ともに圧倒的に多い。

サンバルプリはベッド・カバー、壁掛け、ハンカチ、テーブルクロス、シャツの生地として売られ、多くは女性の着用するサリーとして販売される。女性用のサリーの価格は最も安価のものでおおむね80ルピーから販売されるが(2006年7月現在で、1ルピーは約2.5円)、このうちサンバルプリ・サリーは木綿のものでおよそ250～2,500ルピーで販売され、絹製は1,500～10,000ルピーで販売される。このような価格帯において、木綿製は日常的に着られるサリーとして、絹製は中級から高級品サリーとして位置づけられる。特に絹製のサリーはフェスティバルやイベントなどで女性が着飾る姿を見かけることができ、結婚式などの贈り物としても用いられる。原料の違い、模様の緻密さやその多寡によって値段は異なる。このように、サンバルプリはサリーという商品としてその価格帯をみると、日常着から高級品と幅広い商品としてみることができる。週定期市、商店街、複合商業地域を比較すると、同一程度の商品における価格で大きな違いはおおむねみられないが、取扱商品構成において前者に向かって日常使いの比較的安価なものが多く、後者に向かってより多く的高级品が取り扱われる。

②商店街において取り扱う商品の観点から布に関する店舗の分類を試みた。315の店舗(商店街の中心から外れる数店舗を除外したほぼすべての店舗)のうち、衣類等を販売する店舗は61店舗あり、以下のように分類できる。縫製を伴わない布製品(サリー、タオル、服飾生地など)を取り扱う布店(17店)、縫製を伴う布製品(シャツ、ブラウス、スカート、子供服など)を取り扱う既製服店(17店)、染織を行う際の糸や染料、道具を販売する染織材料店(4店)、ミシンなどを利用する縫物に用いる糸、針、ボタンなどを販売する手芸店(1店)、靴店(9店)、宝飾店(13店)である。

③上記61店舗のうち、衣服の生産と流通に密接に関わる布店、既製服店、染織材料店、手芸店の計39店舗に対し、生産との関わりについて聞き取りを行った(サンバルプリの有無、商品の入手方法、店主のジャーティ、居住地、出身地、業務にあたる人数、店主と従業員との親族関係の有無、他の店舗の有無など)。ここでは概要として衣服の販売に関わる布店と既製服店に関するデータの一部を挙げる。なお、布店のうち、

研究成果の概要 つづき

1 店では聞き取りが行えず、他の 1 店はオリッサ州政府管轄の店舗であるため、ここでの分析から除外している。

- ・ サンバルプリの商品を取り扱うのは、布店のみ
- ・ 布店では、サンバルプリ以外の商品をスバルナプル県、近隣県、あるいは近隣州の都市にある卸売商から購入
- ・ 布店(15 店)のうち、店主の同一世帯内においてサンバルプリの生産に織元として関わっている者がいる店舗は 6 店(すべてブリア)
- ・ 布店(15 店)の店主のうち、染織に従事するジャーティに属する者は 11 店(すべてブリア)
- ・ 既製服店では、すべての商品をスバルナプル県、近隣県、あるいは近隣州の都市にある卸売商から購入
- ・ 既製服店(17 店)の店主のうち、染織に従事するジャーティに属する者は 10 店(ブリアが 5 店、デラが 5 店)
- ・ 既製服店の店主の同一世帯内においてサンバルプリの生産に関わっている者がいる店舗はない

これらから、スバルナプル県の商店街における衣服に関連する商品の流通に、染織に従事するジャーティの者が多く関わっていることがわかる。また、サンバルプリに関してはすべてブリアに属する者が流通を担っている。

④ スバルナプル県において布ビジネスで最も成功しているといわれる C 氏のライフ・ヒストリーと C 氏の経営する R 社の事業内容について聞き取りを行った。C 氏は 1935 年にソノプルのブリア・ジャーティの世帯に生まれ、9 歳のとき父親を失い、母と三人の姉妹で生活するため、12 歳ころより家業である染織物の生産に従事するようになる。織物協同組合などを経て技術を磨き、1961 年にインド政府織物省の管轄する Weaver Service Centre に Expert Weaver として就職する。インド各地にある施設で働くなかで様々な技術と共に布ビジネスを学び、1984 年に自ら辞職したのち、織元としてサンバルプリの生産から流通を担う R 社を起業する。現在、家内制工業の形で約 400 の織りや染めを担う世帯と関係し、また隣県に約 80 機の織機を備えた工場を建設してサンバルプリの生産に従事する。さらに、2000 年にはオリッサ州都ブバネシュワルに衣服を販売する店舗を建設して、C 氏の二人の息子と友人の息子の 4 名で R 社の経営を行っている。C 氏はオリッサ州のステイト・アワードやインド政府の蓮華褒章、工匠褒章などを受章し、作家的創作も行っている。

⑤ オリッサ州政府によって建設された政府系物品販売所 (Ekamura Haat) の概要と設立経緯、およびここに出店する事業者の聞き取りを行った。Ekamura Haat は、2002 年にインド政府織物省とオリッサ州産業省などの企画・出資によって、オリッサ州の工芸品、特産品の振興を目的としてブバネシュワルに建設された。インド各地の工芸品や特産品を一同に集め、生産者の実演販売などを行う、デリーにつくられた Dilli Haat に倣って建設された。10 m²程度のブースに区切られた場所で、事業者は 1 日 40 ルピーの使用料を支払って、販売を行っている。現在、Orissa Industrial Development Co-operation によって運営されている。

以上、①から④でサンバルプリが流通過程で商品としてどのように取り扱われ、生産を担う人々とどのように関わるかについて調査を行った。⑤ではスバルナプル県の商店街や週定期市にはみられなかった工芸品、特産品として価値づけられたサンバルプリが、州の産業振興政策の補助を受けて流通が展開される様態について調査した。

※ この(様式 2)に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式)を添付すること。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

① 佐藤 誠、「インド・オリッサ州における布『ソンボロプリ』の生産体制と技術」、『物質文化』、83、2007年、pp. 1-20